

[令和4年度] 第3回 飯田市新文化会館整備検討委員会 会議録

会議名称	第3回 飯田市新文化会館整備検討委員会
開催日時	令和4年9月22日(木)午後7時～午後8時34分
開催場所	飯田文化会館 2階 会議室
出席委員(敬称略)	川崎好昭、塩澤哲夫、高松和子、田中悦雄、原田雅弘、黒河内智子、賜正俊、飯島剛、桑原利彦、小西盛登、小木曾俊夫、遠山あづみ、前澤正徳、森本典子、小澤櫻作、佐々木宏幸、山元浩
欠席委員(敬称略)	片桐啓、上沼俊彦
オブザーバー(敬称略)	井坪隆
出席事務局職員	松下参与(教育次長事務取扱)、下井文化会館長、筒井補佐兼文化会館建設担当専門主査、木村事業係長、山崎人形劇のまちづくり係長、白井主査、中島会計年度職員
会議の概要	1 開会 2 議事 (1) 前回の振り返り(配布資料No.1)、今後の進め方(配布資料No.2) (2) 意見交換(基本理念の検討) 3 事務連絡 4 閉会

※公表の会議録(発言)には委員の氏名を掲載いたしません。

1 開 会

○委員長 皆さんこんばんは。

定刻となりましたので、ただいまから第3回新文化会館整備検討委員会を開催させていただきます。

本日、上沼委員、片桐委員から欠席のご連絡をいただいております。ご報告させていただきます。

私も、今日は、長袖上着を着てみたいなことになっております。なんか台風の襲来とともに寒くなったかなという気がするんですが、「寒暖の差が激しいと体調を崩しがちだから気をつける」って言われてますので、皆さんもぜひお気を付けいただきたいと思います。

2 議 事

○委員長 それでは早速ですが議事に入ります。

(1) 前回の振り返り・今後の進め方

○委員長 初めに(1)前回の振り返り・今後の進め方について、事務局から説明をお願いします。

○下井館長(事務局) それでは説明に入りますが、その前にまずは1つ、文化会館からの報告というところでお願いしたいと思います。

文化会館では、この9月の市議会に、新文化会館関係の補正予算を提出して、昨日、議決を得ました。中身としては、この委員会の広報に係るいわゆる情報発信の費用と、あと建設候補地の選定のための準備として、基礎的情報収集に関する調査業務を専門家に委託するという、そういう費用を盛っております。

市としては、その評価対象を、土地のほうですけれども、大きな括りで1つ目、中心拠点、それから中心拠点近郊、それから広域交通拠点、それから4つ目でその他の郊外という大きな括りでエリアで分けましてそれを評価すると、こういうものでございます。

今回委託することになる、結果として出てくる情報などについては、まだ先のことになると思いますけれども、この委員会、どこかの時点でお示しすることになるかと思っております。

また、改めて確認なんですけれども、この建設場所については、市として責任を持って決めていくという、こういうことでございます。

この委員会としては、まず柱となる基本理念、基本構想の検討をお願いしていきたいというふうに思っております。

それでは、今日の議事のほうに入ってまいりますけれども、まず前回の振り返り、今後の進め方ということで今日の資料No.1と2というのをご覧いただきたいと思っております。

まず、資料ナンバー1でありますけれども、今回は第1回目のミニワークショップで出されたキーワードをもとに飯田文化会館が果たしてきた役割、それからこれから果たしていこうとする役割について、5つの班について分かれて意見交換をしていただきました。学識委員の皆さんにも班に分かれていただいて、意見交換が活発になるように助言をいただきました。

発表の内容につきましては、事前に会議記録を送っておりますけれども、振り返りをいくつかしたいと思っております。

ページでいくと1というふうにページが振ってあるものの下段のほうからですけれども、1班ですけれども、いくつか拾ってみますと「ひろば」、それから「日常」、それから「感動」、それから「育てる」。

2班については、やはり「ひろば」というものが出ておりますけれども、「市民が裏方で」とか、「本物」というキーワードが出ております。

3班については「つながる」とかあるいは「吸収」、「継承」、「発展」、あるいは「学ぶ」というキーワード。

4班は「育む」、「創造発信」、「日常」と「ハレ」というようなそういうキーワードが出て

おります。

5班については、「リニア開通」の話、それから併せて「飯田独自のもの」、それから「人を育てる」というようなこんな意見が出ております。

学識委員の皆さんからは、まず感想としてだと思えますけれども、「こんなに意見が出るワークショップってそうそうないんだよ」ということで、「非常に熱意を感じます」というようなお話をいただいております。

そのほか「幅広い利用」であるとか、「歴史から子供たちへの視点」というような意見もいただいております。特に〇〇学識委員からは、「ローカルな視点」と「リージョナルな視点」、それから「日常的な場」、それから「飯田の独自性」というような視点を総括の中でお話をいただいております。この点につきましては、前回、全体のファシリテーターをお願いしたということもございますので、後ほど補足をいただければありがたいです。

事務局で班ごとの記録、それから後日いただきましたアンケートについて、その内容を含めて改めて少し体系的に整理をさせていただいたのが、同じ1ページの上のほうにありますけれども、30個のキーワードに再整理をさせていただいております。

ローカルとリージョナルという軸、それから日常と非日常という軸、そして多くの班でキーワードとして上がったのは「集まる場」とか、「寄り合いの場」、それから「みんなのひろば」というようなそういうことが出ておりました。また「つくる場」、それから「発信する場」、「感動する場」、こういったキーワードも出ていたと思われま。

この30のキーワードに関しましては、本日の次の議事、(2)のほうですけれども、各委員からそれぞれご意見をいただきたいなというふうに思っております。

続いて、資料ナンバー2でございますが、今後の進め方ということで1枚付けておりますが、ご覧いただきたいと思えますけれども、前回、第2回目の委員会でかなり多くの意見をいただいております。新しい文化会館の果たす役割についても、各班で深い意見交換ができたので、本日の委員会では基本理念の仮決めと言いますか、1つの形にしたいなというふうに考えております。

今後は基本構想の検討に移っていくわけですが、この基本構想の議論の中では、また新たな視点が出てくるというふうに考えられますので、今日のまとめができるというふうに思いますが、そのまとめにつきましては、仮の基本理念として捉えていただければと思っております。必要に応じて、基本構想の最終段階に近い時点でもまた修正があり得るというふうにご理解をいただきたいと思えます。

また、前回まで意見交換やアンケートの中では、「リニアができたときの飯田の新しい文化会館の位置づけに関してどのように考えていくのが良いか」というような、こういった意見も出ておりました。基本構想の議論がこれから本格化していくと思えますが、公共のホールを専門にコンサルタントしている専門家のお話を聞く機会を、学習会ということになるかと思えますが、次の委員会には合わせて企画をしたいなというふうに考えております。

説明としては以上でありますけれども、前回の振り返りに関しまして、〇〇学識委員のほうから少し補足をしていただけるとありがたいというふうに思っております。

○委員長 それでは〇〇委員、補足をすみませんがお願いいたします。

○学識委員 皆さん、こんばんは〇〇でございます。

前回、非常に活発な議論を聞かせていただきまして、最後のグループベースの発表のときに日常性、誰でも気軽に参加できるというようなところに焦点を当てた議論と、それからリニアの開通を見越して、要はこのホールの位置づけというのをどのように考えていくのかというかなり広域を意識した議論というのがあったなというのが、今でも記憶に残っています。

ローカルとリージョナルっていうこの2つのキーワードっていうのは、ちょうど地理的な関係で言えば、まさに今の飯田の丘の上とリニアの新駅の周辺の開発っていうところに置き換えられるものだと思いますけれども、必ずしもローカルとリージョナルっていうのが、スケールが違う概念だからといって対立する概念になるとは思ってはいません。すなわち飯田ならではのローカルとリージョナルの関係が、どのようなものになるのが一番適切なのかということが議論の焦点になっていくべきものだと思いますし、おそらくローカルとリージョナルというものは、どちらも独自性とはなんだったという辺りを結構掘り下げていくような話になるのかなというふうに思っています。

またその飯田のホールの独自性というのを掘り下げようとしたときに、それを質的なもので出していくのか、量的なもので出していくのかという辺りに関して、かなり皆さんの中でもいろいろなご意見があるのかなというふうに思いますので、1つの評価軸というか、議論の軸としてローカル・リージョナルというのを設定してみてもどうかというのを、前回のまとめの中でお話をさせていただいたということでもあります。

私からは以上です。

○委員長 はい、ありがとうございました。

ただいま(1)について、事務局からとそれから〇〇委員からお話をさせていただきましたけれども。

質問等ある方がいらっしゃればご発言いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

すみませんが、発言する場合には挙手をしていただいとお名前をおっしゃってから着座のままでするので、お願いしたいと思います。

ちゃんと記録をとっていく上で、ぜひお名前をお願いしたいと思います。

いかがでしょうか。

(発言するものなし)

○委員長 よろしいですか。

後でまた意見交換する機会がありますので、その折にでももし質問が浮かんできましたら、またそれぞれのところへ質問していただきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

(2) 意見交換（全体）

○委員長 続いてですが、議事（2）について、事務局から説明をお願いします。

○下井館長（事務局） それでは、今日の本題というふうに思っておりますけれども、資料N o 3をご覧いただきたいと思います。資料N o 3でございます。これも1ページものでございますが、下段のほうは先ほど振り返りで出された意見、30個の意見、同じものでございますけれども、そこに書き出してございます。

今の○○委員からも補足をいただきましたけれども、これまでのワークショップで出していただいた意見を体系的に今の30のキーワードにまとめたというものでございます。

そして、この中でもどうでしょう、さらに大切と思われる言葉から基本理念の素案としてこのページの上のほうでございますけれども、仮としてたたき台というふうにお考えいただきたいんですが、1つ形のものを見せていただいております。

今回、全委員の方から意見をいただきたいというふうに思いますが、ここに今、点線で囲ってありますけれども、4つのポイントを整理しましたので、それについてというようにお話をしたいと思っております。

まず、1点目ですが、その前に全体ですね。「みんなが集い、つくり、伝え、感動する飯田文化芸術ひろば」と、こういう基本理念を考えてみたというものでございます。

まず1点目、①とございますが、複数の班から「みんなでやる」とか「みんなの文化」キーワードとしては、みんなという言葉が非常に多く出てきました。ですので、「みんな」という言葉を入れてみたということでございます。

それからここで②でございますが、A・B・C・Dということで4つ挙げておりますけれども、「集う」、「つくる」、「伝える」、「感動する」この4つのキーワードをやっぱり重要だなというふうに思いましたのでこれを挙げております。この4つがいいのか、あるいは3つでいいのか、あるいはもっと違う言葉を入れたほうがいいんじゃないかってそんな意見もあるとは思っています。

それから③ですね、3つ目の視点ですけれども、これはやっぱり班の中では飯田には独自性があるんだということで、言葉としては「オンリーワン」というような表現になろうかと思っておりますけれども、あえて「飯田」という言葉をこの中に入れたほうがいいんじゃないかということでキーワードとして盛り込んでみました。

それから最後に④として、4つ目ということですが、先ほど来、何回か皆さんの言葉から出た、皆さんの班から出たということで「ひろば」という言葉、社会的、あるいは空間的概念というのを指しているかもしれませんが、そういった班での意見が出ておりますので、新しい文化会館が目指す役割として、「ひろば」という言葉を使ったらどうかというふうに考えてみました。たたき台として、この一文を入れてみたということでございます。

説明は以上であります。

○委員長 はい、ありがとうございました。

ただいま（２）について、説明がありました。基本理念の仮の提示ということです。

４つの検討ポイントということと、②のポイントのところに４つのキーワードというふうにあります。こういう基本理念でどうだろうかということですが、まずはお一人お一人から先ほど説明の中にもありましたが、お一人お一人から感想も含めてご意見をいただきたいというふうに思います。

ちょっとドキッとされてますか。テーブルに座っている順番でこちらから行って。あとは、ここに戻っていただいてというふうにそんな回りで、こんな回りでいきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○委員長 それじゃあ〇〇委員お願いします。

○委員 お願いします。〇〇です。お願いします。

今日示していただいた基本理念、それぞれが盛り込まれているので、悪いってことは全くないなという感じです。このとおりでろうなっている、前回まで話し合ってきたことを入れ込もうとするとこうなってくるだろうなっていることは思います。

「みんな」とか「ひろば」っていうのは、大事な要素だったなって私も思っているので、これは入れるんだらうなど。それ以外のA・B・C・Dっていう、それから②、③ですか、こういうものを入れ込んでいくとこんな形になるんだらうなどは思うんですが、が、というのは、やっぱり盛り込みすぎの印象が強くて、ぼやけてしまう感じがあるので、基本理念ってことなので、それでも全て盛り込んでおく必要があって、さらにキャッチフレーズみたいなところでキーワード的な言葉を頭に持ってくればいいのかと思います。

あとは、この言葉の内容をいかにテンポ良くリズム良く言えるような形にできるかっていうことを考えていけばいいのかと思いますので、基本的にはこのワードというのは生かしつつ、あと入れ替えだとか語感だとかそういうものを考えながら組み合わせを考えていけばいいのかと思います。

以上です。

○委員長 はい、ありがとうございました。

それでは〇〇さんお願いします。

○委員 はい、〇〇です。お願いします。

私も出てきたキーワードを集めればこうなるよなと思っておるんですが、この基本理念の中心としては感動するっていうところに集約するのかなっていうふうに１個思いはします。

私はちょっとあまのじゃくなので、１個視点として、思ったことなんですけど、その「みんな」っていう言葉なんですけれども、この検討委員会で「みんな」っていう言葉をたくさん確かに使っておりまして、あれなんですけど、どこか使い方によっては排他的っていうか部分ってあるのかなっていういつも思う言葉で、その今、多様性って言いますけど、みんなって

いうと仲間ってというイメージがあるんですけども、その例えばいろんな考え方を持っている人たちがどこか疎外感を感じる部分があるんじゃないかなとか、ふと思うんですよ。多くの人々ってという表現、みんなってという表現、市民ってという表現、いろいろあると思うんですけど、どんな語感がいろんな考え方を持った10万人、16万人の人たちに一番なじむ言葉なのかなっていうことを、言葉を使って仕事をしておる人間なのでふと思いました。

「ひろば」っていうのも、その「ひろば」集まるひろば、いろんな文化が交わる交差点っていう考え方、私この「ひろば」っていう言葉は、ヨーロッパの教会があるようなああいうひろばをイメージするんですけども、そうやっていろんな人が生活の中で通過する場所が1つ大きくなってって集まれるってというようなイメージなんですけれども、日本のひろばっていうものとなんだらう、パッと聞いたときに多くの人々がどんなふうイメージするのかなってというのが、ちょっと気になったというか、また議論の隅っこに乗っかるとまた言葉として生きてくるのかなってちょっと思ったのでお伝えしておきます。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○○さん、お願いします。

○委員 前回、僕出てなかったんで、あまりちょっと言えないんですけど、これやっぱり見ていると、言葉としては僕は、ごめんね、「みんな」ってというのは僕のイメージではみんなというイメージであります。それから「ひろば」というところは、集う拠点ってイメージを持っているので、言葉の中としての意味としては僕は抵抗はないんですけど、いかんせんこれはやっぱり語呂が悪いし、それからもう飯田文化会館で、もちろん飯田っていうのをこだわるのは分かるんですけど、飯田って言葉を入れる必要はないと思う。

それから、文化芸術はもうなくて良くて、僕はずっと考えていたのが、「みんなが集い、つくり伝える、感動のひろば」ってやりたいなって思いました。

以上です。

もう1回言おうかな。「みんなが集い、つくり伝える、感動のひろば」。

○委員 ○○でございます。

私ちょっと引かかったのは、この「飯田」っていうのが独自性という意味で言うと飯田ってなくてもいいのかなと。今○○も言っていましたけれども、ほかの部分でこれが独自性なんで飯田って書かなくても飯田らしさかなという感じがします。

あとは、一応、タイトルですからなるべくかっこいいタイトルのほうがいいのかなと思っております。

○委員長 ありがとうございます。○○さん、お願いします。

○委員 ○○です。

皆さん、おっしゃること、もっともだと思えますけれども、私が引かかったのは、「みんな」という言葉、それと「ひろば」という言葉なんですけど、「みんな」ということは、今まで

もいろいろ出ておりますけれども、通常でしたら飯田市の文化会館ということで市民とかそういう言葉が使われるかなと思ったんですが、飯田市でつくるけれども、拠点となるという意味で、下伊那も含めてのことを考えると「みんな」という表現でいいのかなというふうに思います。

それと、「ひろば」という広い意味を持つ言葉でどうかなってというのはちょっと疑問に思ったんですが、いろいろの言葉があると思うので、これはこれで検討するとしてとりあえずはいいかなと。

それと〇〇さんと〇〇さんがおっしゃったように、飯田文化芸術、これは必要ないかなと思います。文化会館のことですので、そこまでうたう必要がないのかなというふうに思います。

で、「集い」、「つくり」、「伝え」、「感動する」、この言葉ですが、いろいろ表現の方法はあると思いますので、非常に分かりやすく、これでもいいですけども、ほかのこともあればいろいろ検討していく内容かなと。

それとやっぱりちょっと長いなという感じは受けました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。〇〇さん、お願いします。

○委員 ほとんど私も気になったところはやっぱり「みんな」という言葉と「飯田文化芸術」っていうところですよ。

「みんな」については、この仮のたたき台のままだと多分いらぬ方がいいのかなというふうにちょっとくどくなる。それから「飯田文化芸術」もくどくなるっていうふうに感じました。

あと、今、〇〇さんもおっしゃってましたが「集い」、「つくり」、「伝え」、「感動する」っていうところに、例えば飯田創造館でやっているような活動は含まれるのかとか、そこら辺はもう少し活動内容、機能を絞り込んでいかないとうまい言葉が出てこないのかなっていうふうにちょっと感じております。

ただ、〇〇さんのことを聞くと非常にスッと入ってくるので、今のところはちょっと余分な説明的な部分を省くと、〇〇さんの案は非常にいいのかなというふうのように感じております。

○委員長 ありがとうございます。〇〇さん、お願いします。

○委員 〇〇です。お世話になります。

私は、「みんな」っていうのは「人」かなっていうところを思ったところと、「飯田」っていう言葉がやはり文化会館、飯田の周囲、もっと広域、もっと外の目を向けるそういう人たちがたくさん集まって一緒に感動したりできるっていうところでは、「飯田」という言葉ではない、この「人」、飯田はみんなを呼びますよっていうような、ごめんなさいちょっとまだ言葉は思いつかないんですけど、そういうような言葉があるといいのかなっていうのを思い

ました。

○委員長 ○○さん、お願いします。

○委員 はい、皆さん、言葉の部分で指摘いただいて、それは聞いて皆さんもっともだなというふうにして聞いておったんですが、私ちょっと違う視点からちょっと話させていただくと、実は私、先月の末に、韓国の春川（チュンチョン）という街に行ってみまして、そこで人形劇フェスティバルが開催されていまして、そこへ行ってきました。

そのときに感じたことなんですが、その春川には人形劇場があって、その周りがいわゆる人形劇の公園みたいになっているんですね。私が行ったのは平日だったんですが、そこにただ遊びに来る子供もいて、あとそのフェスティバルの人形劇を見に来る人たちが、家族連れとかがいて、お茶を飲みにくるだけの人もいて、本当に皆さん様々な目的でそこに集まって、それぞれの時間を楽しく過ごしているっていう景色を見たときに、「ああ、なんか飯田文化会館もこういう場所になるといいな」ということを1つ感じたということがあります。

そしてもう1つ、韓国の春川という街は、大きないろんなフェスティバル、確か3つ開催していると。人形劇フェスティバル、演劇フェスティバル、大道芸フェスティバル、年に3つの大きなフェスティバル、すげえなあと思ったんですが、なので、ホールが結構いろいろあるんですね。ですので、春川人形劇場でない別なホールへ行ったとき、そこでも公演があったのでちょっと1回のぞいて見たんですが、そこへ行くともものすごい立派なきれいな建物なんですが、中にいる係の人がスーツを着ていて、あれっこれって企業の何か持っているホールなのかなと思ったりなんかしたんですが、どうも後から聞くと、春川の同じような公共施設だというような話なんですが、でもそこでは非常にクールなというか、杓子定規というかお役所的なというか、そういう対応をされるんです。そういう対応がちゃんとしてて気持ちがいいっていう方ももしかしたらいらっしゃるかもしれないし、まあ韓国らしいと言えば韓国らしいのかもしれないですけども、例えばちょっと子供が騒いだりするとぱーっと係の人が来て、何を言っているのかちょっと分からないですけども、注意をしてみたいな。私もちょっとマスクを鼻マスクをしたらぱーっと来て、「ちゃんとマスクをしてください」とか、そういうホールもありました。

そういったときに、じゃあこの新しく飯田にできる文化会館ってどっちを目指すのって行ったら、やっぱりもう議論するまでもなく、やっぱりみんなが本当に気楽に集まれるところ。そして、そこでそれぞれがそれぞれの時間を有意義に過ごせる場所ってということなのかなというふうに思っています。

ですから、ここに別に「文化芸術」という言葉を入れる必要は僕はない。かえって「文化芸術」って入れたことによって妙な敷居をつくってしまうような気がするんですね。ただ、自分のやっていることは「文化芸術」なのかって皆さん考えながらやっているわけでないと思います。でもそのときに「文化芸術」と言われたときにあれっそうなのかなっていうのは出てきて、ちょっと体が引いてしまうようなこともあるのかなあとと思いますので、僕はやっ

ぱり大事にしたいのはみんなのものだということ。まず1つは。そして、いろんな方々がいろんな思いを持って集まれるひろばなんだということ、この2点をきちんと貫くことができれば、僕は素敵なお場所になるのかなというふうに思っております。

ほかの言葉ももちろん無意味だとは思いませんけれども、そういった辺りをきちんと前に全面に出せて、その中で行われるのが「つくること」、「伝えること」、「感動すること」だよみたいな感じで描けたら素敵だなというふうに感じました。以上です。

○委員長 ありがとうございます。〇〇さん、お願いします。

○委員 お世話になります。私も前回ちょっと出られなくて、議事録見せていただいて、この会議に参加できなくて残念だったなと思った一人です。本当にいろんな意見が出たことを素晴らしいなと思って読ませていただきました。ありがとうございます。

で、今、皆さんの意見を聞きながら、いや本当どの意見ももっものような気がしますし、まだ自分の中でも整理できてないんですが、私の中でちょっと振り返って、私は公募で入らせていただいたんですが、この文化会館の整備検討委員会というのは、確か市の基本目標みたいところで、確か地域文化やスポーツを通じてやっぱり飯田市民が人と地域のつながりをつくるとか、潤いをつくるっていうような言葉のもとでこの会がつけられたということが私、ちょっとうれしいなと思って、そこもあってこの会すごく楽しみにしているんですが、今のお話の中で、言葉の問題出ているんですけど、私はなんか単純に「みんな」っていう言葉はやさしい言葉だとちょっと思って、あまり堅くなくて、入りやすいけど、よく考えるといろいろ深く考えると、問題もあったりするのかなあと思って今、考えています。

あと、「ひろば」っていうのは確か1回目の会議のときに、例えば館、何か箱があるところに人が集まるんじゃないかと「ひろば」というのは自然に人が集まったところが「ひろば」っていう名前がつくとか、「そこがひろばになる」という考え方を伺って、それもすごいいいなと思っていたので、そういう人が来て、場所があるっていう意味のひろばっていうことは分かればすごくいいんだろうなと思って読みました。

あと、文化会館っていう名前が、元の50年前の理念はどうなのか知りたいくらいなんですけど、飯田会館じゃなくて文化会館っていう名前があるっていうことは、やっぱり文化をすごく大事にするっていうことと、それこそ皆さんが語ってきたことがすごく大事なあっていうことを改めて私も考えるようになりました。

で、特に独自性とか広域性とかっていうのは、本当にこの中に含まれるっていうことあるので、基本理念はある程度分かりやすい言葉ならいいのかなとも思います。

で、先ほど〇〇さんの話にもちょっと、それを聞いて伺ったんですけど、私、趣味でというかダンスやなんかをやっておりまして、そういう仲間たちももし良かったらこういうところに入れられたらなっていうところもあるし、どっちかっていうと前回の話にもちょっと出ましたけれども、バンドとかダンスのメンバーって比較的置き去りにされやすいっていうのが書いてあったところもあって、そうかと思ってちょっと何人か話をしてみたんですが、私

の話し方が悪かったのか、やっぱりちょっと堅いというか、なんか話合いみたいになるのは「俺たち、ただダンスしているだけですから」とか、あるいは「遊んでいるだけです」っていう感覚なんですよ。でもそれ自体が文化活動をしているのにもったいないなと思って、ちょっと私もそこから食い込んでないので、また時間を置いて話をしたいと思っているんですが、やっぱり若い方たちってせっかく飯田でお仕事して生活している中で、やっぱり潤いとか、生きがいとか、楽しみって絶対に仕事意外に見つけないから、夜の時間とか、休みの時間とか、そういう仲間を探しているし、場所も探しているんですよ。そういう場所になれたら本当にいいなと思いました。

長くなってすみません。

○委員長 ありがとうございます。それじゃあこちらの列いきます。〇〇さん、お願いします。

○委員 はい、すみません、今、いろいろ皆さんからお話聞いてて逆にいろいろ迷ってきている部分もあるんですけども、1つは「飯田」という言葉とこれから将来を見たときに、やっぱり南信州、広域的な部分を1つは考えていく必要があるのではないかとということと、年代を上から下まで、総体的な皆さんの使える場所と、そういう意味合いも含めていったらどうかなというふうに私は思っております。

ローカルのっていうか、地域においては文化を育てていくという部分もありますし、特に私自身は、やっぱり地元だけではなく中央の文化も含めていろいろ経験なり体験できる場所という意味合いで、そういう部分も考えていただければなというふうに思っております。

基本的には、そこら辺を中心に、みんなで楽しめるというか、要するに皆さんが参加をして来れる場所という意味合いを含めてもらえればというふうに思っております。

簡単ですが以上です。

○委員長 ありがとうございます。

〇〇さん、お願いします。

○委員 お願いします。

ちょっと視点を変えて、この今、言っているこのキーワードは、どこにどういうふうに皆さんに周知していくのか、そこらによってやっぱり表現も違ってくるのかなっていうことを思いながら、こんなふうになりたいということがキーワードなのか、そのみんな知ってよっていうことでキーワードなのか、そこら辺の違いによってもパッと一言で言えるようなのがいいのか、あるいはこの標語のように並べるのがいいのか、様々あると思うんですが、こういうふうに並べられちゃうと、一体どこでどういうふうにこれをアピールしたいのかっていうところを、はっきりさせてから決めたほうがいいんじゃないかなっていう気がしながら今、伺っていました。

どれも外れはないと思うんですけども、どこでどんなふうに使いたいのかなっていう、私自身もちょっと分からない。どういうふうに例えばここで何かやらせていただくときに、

このキーワードはどういうふうにかかされていくのかという、その辺りも考えながら、語呂合わせではないですけれども、やっぱり聞いた感じ、耳障りのいいところに収めたほうがいいのかなというふうに思います。

中身でいうと、やっぱりここは文化創造の場だと思うんですね。仲良しごっこしている場所じゃないと思うんです。いろんな施設があって、仲良くみんなワイワイやろうよという施設ももう市内でもたくさんありますので、ここはやっぱり非常にレベルを1つ上げて、足がガクガクするくらい、ステージに立ったらガクガクするような経験が私を大きくしてくれるわけで、みんなで仲良しごっこしている場ではないと思うんですね。やっぱりきちんと文化を教習して、レベルアップをしていく場にしてほしいなというふうに思うんですが、まああるときは楽しむということもあると思うんですけれども、それだけではやっぱり文化は創造できないと思うので、ギリギリの場面まで追い込まれて、足がガクガクしながらも歌を歌った。そういうことの積み重ねによって、やっぱり向上っていうのは起こってくるんじゃないかなと思いつつながらなんです。

そうするとこの中から拾うとすると、「みんな」っていうのは使わなくても当たり前なでもういいかなという。「この人は駄目よ」、「この人はOK」、「みんなだよ」っていうことは、これは大前提の話なので、そこに「みんな」という用語はいらないのかなというのを思っています。

この中から拾うとすると、やっぱり「文化を育む」とか「文化の創造」とか「つながる」、「学び合う」みたいなそういうところがいいのかなというふうに思うんですが、まず最初に言ったように、一体このワードをどういうふうに使っていかうとするのかという辺りを少しはっきりさせていただくと、もう少し絞りやすいかなというような気がします。

○委員長 はい、ありがとうございました。

ちょっとすみません、今、ご指摘のあった部分について、どんなふうにお考えでしょうか。

○下井館長（事務局） はい、どういうふうにかかっているようなご意見をいただいたんですけど、先ほどちょっと、あまり説明しませんでしたけれども、資料N o 2のほうへちょっと戻っていただいて、1・2・3回のワークショップって言いますか委員会がということでお話させていただきましたけれども、その一番下の四角の囲みで、これは一番最初の委員会でお示したものと同じものなんですけれども、基本構想、それから基本計画、基本設計、実施設計っていう、およそこういう流れで計画も進んでいくというふうに考えておりますけど、今回のその中の基本構想の中のさらにその中心の中心である基本理念というものを考えていただくということで、仮のものを一旦お示したということです。

とにかく一番中心になって、先ほど「知らせたいのか」、「こうありたいのか」というお話がありましたけれども、どっちもなんですけれども、こうありたいというふうが強いのかなというふうに思いますけれども、それがこの全体の計画の背骨と言いますか、その中心をなしていくというふうにご検討いただければ、このこと自体が皆さんの議論

の中でも少し出てくるといいのかなというふうに思いますけれども。

○委員長 はい、今、事務局の立場をご説明いただきました。

○○さん、どうぞ。

○委員 ○○です。

私も拾い上げていただいたこの言葉については、今までの議論の中で出てきた言葉なので、大事にしたいなというふうに見させていただいたんですが、その中で飯田、③のところに「飯田という独自性」ということが書かれていますけれども、みんながっていうことを考えると飯田の独自性も大切なんですけれども、飯田だけじゃないいろんな人たちが集まれる、そういう施設っていうふうに考えると、あえて「飯田」という言葉は使わなくていいんじゃないかなっていうふうに見させていただきました。

それから「文化芸術」という言葉についても、あえて「文化芸術」ってここへ入れなくても文化会館を考えるんですから、その文化会館そのものの建物の下地はやっぱし「文化芸術」がそこに流れているって考えれば、あえてこういう言葉として入れなくてもいいんじゃないかなっていうふうには見させていただきました。

で、「みんな」がっていうところと、「ひろば」っていうところなんですけど、「ひろば」っていうのは下のキーワードを見ていただいてもいろんな場っていうね、何々の場っていう、そういう表現がされているっていうふうに見えるんですけども、そういう場がこの「ひろば」につながるっていうふうに考えれば、この「ひろば」といろんな人たち、飯田だけじゃない飯田下伊那広域を考えながら、もっと広い範囲の様々な人たちが集まる「みんな」そういうふうに考えれば「みんな」と「ひろば」は大事にしていればいいんじゃないかなっていうふうに見させていただきました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。○○さん、お願いします。

○委員 ○○です。私もちょっと、この基本理念っていうのをちょっと見させていただいたとき、もうちょっと堅い言葉のほうがいいのではないかなという気がしないでもないんですけども、皆さんで選んだこのキーワードの中でつくっていただいた、これを修正するとすると、私はあえて「つくり伝え」っていうのは皆さんやってこられていることなんで、ここはあえて入れる必要はないんじゃないかなという気がします。

それで先ほど言われたように「飯田」ということ、キーワード、これも広域性ということを見るとこれも外したほうがいいんじゃないかという気がします。

で、私がこれをつなぐとすると「みんなが集い、ともに感動する、芸術文化のひろば」こういうふうな考えでいます。

○委員長 ありがとうございます。○○さん、お願いします。

○学識委員 ○○です。今回もどうぞよろしく願いいたします。

私からは2点、今、お話伺っていて思ったことがあります。

1点は、この基本理念の役割というか使い方というところで、私は今年度に入りましてさらに〇〇県の〇〇市さんが新しく今、ホールを造ろうとしておりまして、今、お手伝いをしている、そちらのほうもお手伝いをしているんですが、そちらのほう、〇〇市さんのほうは基本理念がもう設定済みなところからプロポーザルが進んで今、基本設計を作っている段階なんですけれども、そのときにやはり基本理念の中にちょっと僕も単語、具体的には忘れちゃったんですけど、「集う」とかいうようなキーワードが入っていたので、それをもって設計にもやはりこの基本理念をどう生かしていくのかっていうところが、やはりデザイン上も入ってきますので、そういった機能的なところのキーワードもとても大切だろうなというふうには思っております。

そちらが1点と、今回、お示しいただきました基本理念の仮のとなんなんですけれども、これまでディスカッションを聞いていまして、とても皆様のキーワードが入り込んで、とてもいいなと思っておりますし、ホールを運営していく立場の者としてもものすごく創造力をいただくものであるのでいいなと思っております。

ただ、これをもしブラッシュアップ、さらに力強いものにしていこうとすると、私はこのホール、施設を利用される方、ご参加される方々から見たホールの役割、機能といったところはこういったところ、がキーワードなのかなと思うんですが、逆にここのホールが活動してこういった機能を充実させていくことによって、今度はホールからこの街をどうしていきたいんだっていう街の未来像が入っていくと、さらに奥行きが深いものになっていくのかなと思っております、

ただ、それは1行で書き表すってことはなかなか難しいので、この後、基本理念の中で第1項、第2項という形で膨らませていくという方法もあろうかと思っておりますので、そういったところで皆様の思いから、この街をどういうふうに未来を考えているんだって、こうしていきたいなというところが入ってきたらもっと力強くなっていくなと思えました。

どうぞよろしく願いいたします。

○委員長 ありがとうございます。〇〇さん、お願いします。

○学識委員 〇〇です。よろしく願いいたします。

本当に皆さんのいろんなご意見を聞きながら聞いておりました。やっぱり前回もお話しましたが、飯田の皆さんというのは、普通は市民の皆さんというのは文化会館に来たら出し物を見るだけ、聴くだけなんですけれども、ここの皆さんというのは皆さんがそういったお客さん、客席に座るだけじゃなくて舞台上にも立たれたり、そしてまたその運営自体にも関わったりということ、そういうことが非常に昔から当たり前のようになってきた、そういう文化があるってということで、それぞれの皆さんの立場で今、こう意見が出てきたんだなというふうに思っております。

言葉としては、私は、基本的にこういう基本理念って難しい言葉を並べることが多いじゃないですか。なので、この分かりやすい言葉が並んでいるっていうのはとてもいいんじゃない

いかなというふうに思ってます。難しい言葉っていうか、なんとなくですけど、南信州の文化芸術創造拠点とかなんとかの殿堂とかとかいうふうになって、なんかそういうのがどこのホールでも出たりしてますけど、やっぱりそういうものっていうのが一般の市民の皆さんから見るとちょっと敷居が高くとかって、そういうことに感じられることもあるかもしれないんですが、特にこれからの若い世代の皆さんというのは、今のSNSの活用なんかを見てても、もうそれぞれが表現者でもあると思うんですね。いろんな形で、自分たちのこの活動だとか表現をアピールしていく、そういう世代になってきておりますので、何かそういう先ほどダンスのチームがとかいろいろありましたけども、そういうこれまでこういうホールに公共のホールにあんまり自分たちは関係ないというふうに思っている人たちにももっと身近に感じていただくっていう意味では、このような形の分かりやすい言葉が並ぶっていうのは非常に重要なのかなっていうふうに思っています。具体的ではないですがそういうふうに思いました。以上です。

○委員長 ありがとうございます。

それじゃあ、〇〇さん、お願いします。

○学識委員 〇〇でございます。

ちょっと何点か、皆さんの非常に鋭い意見をお伺いした上で考えたことを述べさせていただきます。

まず1点目なんですけれども、この今、ここに仮として書いてある基本理念というのは、大きく2つの役割がこの委員会においてあるのかなというふうに思っています、1つは、最終的に皆さんがどこかに着地をさせるフレーズとしての基本理念、その仮案ということですね。で、もう1つは今後、基本構想の議論に入っていくときのよりどころっていう役割もあると思うんですね。今まで皆さんが、議論を重ねてきたものをまとめておくことによって、皆さんがより具体的な検討をするときに常にそこに立ち返って、何を議論したのかを考えられる場所というものをつくっておくということも重要だというふうに私は思いました。まず1点目が。

そうやって考えますと、いわゆるフレーズとしての基本理念の仮案としてこれを見たときに、多くの皆さんがこれまで議論してきたキーワードが入っているようなことをおっしゃっているということも非常に適切な仮案を用意していただいたと思いますし、例えば〇〇委員がちょっと初見で本当にこのフレーズを言い換えたんだというふうに感動して聞かせていただいたんですが、「みんなが集い、つくり伝える、感動のひろば」というのは、語呂も非常にいいですし、フレーズとして非常にすっきり入ってくるなというふうに思いました。

一方で、あえてこの段階なので言わせていただくと、おそらくここにいる中で一番よそ者の私から見たときに、このもとの仮の中にある言葉で一番重要なのは私は「飯田」という言葉だと思っていたんですね。それは「飯田」という地名を入れるのがいいとか、あるいはそれを「南信州」と読み替えるのがいいということではなくて、いわゆる基本構想の議論のよ

りどころとして捉えたときに、独自性っていうものを考えていくというよりどころを、このフレーズの中に残しておくという点では、「飯田」なのか「南信州」なのか分からないですけども、いわゆる独自性って大事だよってっていうことの我々に思い出させるフックとして何らかの言葉を仮案には入れといたほうがいいかなというふうには私は感じました。「みんなが集い、つくり、伝える、感動の」ちょっと不細工な言い方になりますけど、「飯田ひろば」というふうに例えば入れておいて、この「飯田」はなんであるべきかということのをこれから議論しようというような考え方もあるのかなというふうに思いました。

ですので、フレーズとして、洗練をさせていくということと、それから今後の議論の中で自分たちが立ち返る場所としてこれを仮案だからこそ、こういうちょっと洗練されない言い方でもこういう言い方がいいんじゃないかというやり方もあるかなというふうに思いながら聞かせていただきました。

ただ、皆さん非常に鋭い、的確なご意見を発言されていてなるほどというふうに思わせていただきました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

突然ですみません。〇〇さん、ぜひ。

○オブザーバー こんばんは。

素晴らしい意見ばかりで洋食でいえば、メインディッシュの後にスープが出てきたようなもんで、大変すみません。

基本的に、これまでの表現はともかく、これまで議論されたことを大切にしていくという流れは大事だろうというふうに思います。

ただ、一方で、じゃあ出てきたものを全部並べればどうなのかというのがこの表現だと思うんですね。でもなんか味が無い、色気が無いというところに少しづつ何かを加えていくっていう方向になるだろうというふうに思います。

その中で「伝える」という言葉、確かに今までも出てきましたけども、我々が音楽芸術をやるときに「伝える」ということ言うかどうか、やっぱり感動したり味わったりというようなことだろうと思うので、やっぱりこころは考えた方がいいかなというふうに思います。

それから、ただ「ひろば」となってますが、私はぜひ入れたいと思うのは「私たちのひろば」、これはどうしても入れたいなあというふうに考えますが、皆さんでまた議論していただければいいと思います。

最終的にもし基本理念に入れるとすれば、「みんなが集い、つくり、感動を味わう私たちの文化のひろば」こんな形がどうかなというふうにスープの立場から申し上げました。

○委員長 ありがとうございます。

今、お一人お一人から感想を含めたご意見をいただきました。これでどの方がどんなふう

にこの基本理念に対して考えられていらっしゃるかということが皆さんで分かっていたいただきましたので、これからお互いに意見交換を進めていきたいと思えます。

で、先ほど、〇〇さんからご指摘があったことについて、事務局が答えましたけれども、まだこれをどう生かしていくかっていうことについては、まだまだ皆さんで意見を戦わせていきながら、共通にしていくっていう操作が必要だろうなって思えます。本当に鋭いところを指摘していただいたというふうに思えます。ぜひ、皆さんのお腹の中にしっかりと入れといていただきたいというふうに思えます。

それじゃあ、もう皆さんのご意見の中に出てきているんですが、4つの検討ポイントをぜひ中心にしてほしいという話がありました。

ほとんどもうこのことに関わって皆さん発言していただいているので、今さら4つの検討ポイントとかっていうふうに私ちょっと困っているんですが、例えば③の飯田という言葉を取ってきましたが、「飯田はいらんんじゃないか」というご意見。それから「飯田はぜひ残しておきたい」というご意見もありました。まずここからちょっと話を進めていこうかなと思えます。

〇〇さんどうぞ。

○委員 その飯田を入れた入れない方がいいって意見は、飯田というもので地域を限定されてしまうという意味だと思うんですよ。さっき、〇〇学識委員さんが言われた飯田ひろば、飯田という場所のひろばでという意味での言葉で聞くと、全然それはおかしくなかったなっていうふうに思いました。

やっぱり飯田がどこに係ってくるか。飯田らしさっていうものは、飯田らしさを伝えるって意味では、確かにすごく大事だと思うし、もしかしたらその前のつくり伝える文化会館、さきほどおっしゃったように大体のところは何かコンサートがあって、それを見に行く場所ってイメージが強い中で、飯田ってやっぱり自分たちがつくって自分たちが伝える、例えば伝統芸能もそうですし、そういう意味合いがあるから、もしかしたらこのつくり伝えるって部分っていうこともかなり飯田らしいんじゃないかなって気もしました。

○委員長 〇〇さん、どうぞ。

○委員 文化会館という名称の中に飯田文化会館という文字が入るのか入らないのかってこともやっぱり関わってくるので、そっちにもそれがあって、またこっちにも飯田があるってうのなので、トータルでみていかないといけないんじゃないかなって。何がいいとか言っているんじゃないんですが、併せながら検討したらどうでしょうか。

○委員長 館の名称は決まっていますか。どうぞ、お願いします。

○下井館長（事務局） いきなりそこまで話がいくとは思っていませんでしたが、館の名称は決まってないです。ただ、今、「新文化会館」って仮に呼んでいるって、そういう感じですかね。

なので、もしかするとこれまでも議論もありましたけれども、その飯田らしさという、飯田、言葉はともかくとしても、飯田らしさ、この地域らしさっていうのはどこかで入ったほ

うがいいかなと思ったときに、この名前もきっとどうでしょう、僕がここで言うことじゃないんですけど、また公募ということもきっとあるかもしれませんし、名前自体はちょっと後でおそらく議論になってくるんだと思うんですけど、今はまだ保留ということに。逆に言うとなんかいいですかね。両刀づかいでいくのが現実的かなというふうには感じます。

○委員長 はい。

どうぞ、〇〇さん。

○委員 この飯田という名称で1つ引かかるのがやっぱり広域の高森、喬木この町村の方たちが飯田って言われると別かなって思っちゃうかなとは思いますが、実際に今、実行委員会やったときに、多分4割くらいが飯田市民じゃないわけです。もう高森、松川、いろんな方が実行委員会に入ってる。そのときにこの飯田っていってしまうとちょっと語弊があるかなというのが今、一番引かかっています。

○委員長 そうすると〇〇さん、飯田じゃなくて例えば南信州とか、そういう言葉のほうがいい。

○委員 ナンバープレートもありますから南信州でいいです。

○委員長 飛びましたね。

どうぞ、〇〇さん。

○委員 この場合、新しい飯田文化会館、新飯田文化会館をという場だと思いますけれども、先ほど〇〇学識委員さんとか〇〇学識委員さんから「飯田のまちづくりも標榜できるというか、考えながらこれを絞り込んでいったほうがいい」というアドバイスをいただいたことを踏まえて考えると、今、その〇〇さんが言うように飯田が場所を示すのか飯田らしさの活動のあり方を示すのかというのは、なかなかここで議論しても絞り込めないだろうなと思うんですね。

で、私も最初聞いたときは飯田はなくてもいいっていうのは、もう活動のあり方が飯田らしさであれば「つくり伝え」とかそういうところに入っているんで、わざわざ基本理念としてはいらぬかなというふうに感じました。

ただ、今の議論を聞いていると、とりあえずの折衷案みたいで申し訳ないんですが、新飯田文化会館の基本理念っていうふうにしておいて、このフレーズのところで飯田は除いてもいいのかなっていうふうに思います。

で、対外的に見たときに、場所を示す「飯田」というのはあったほうがいいっていう意見もあると思いますし、それが〇〇さんのようにもうちょっと広い場所の中心だっていうイメージをつくったほうがいいっていうところもあると思いますが、それはまさしくこの文化会館の、あるいは飯田の文化の将来のあり方に関するところで最終的に決まるところだと思うので、今のところ、なかなかそこを議論していてもきついなかなとちょっと今の話聞いてて感想を持ちましたんで。

ちょっと変な折衷的な案で、とりあえずこの検討委員会がそういうところだということをお知らせした上で、中身というか機能的なところをどうするかみたいところを絞った

り、将来、まちづくりの中でこの新しい会館が果たしていくべき役割ってというようなところを突っ込んでいったほうが、最終的には急がば回れでまとまっていくんじゃないかなとちょっと思ったもんで申しあげました。

○委員長 はい、ほかの皆様はいかがでしょう。

○○さん、どうぞ。

○委員 すみません、○○ですが、「飯田」という言葉の扱いが今、話題になっているんですけども、私も先ほど申しあげたんですが、あえて基本理念の中に「飯田」という言葉を入れなくても飯田という独自性、飯田らしさっていうところがほかの言葉の中に入り込んでいるんじゃないかというふうに思うんですね。例えば、「つくる」とか「伝える」とかっていうそういう場所が文化会館だっていうふうに考えれば、あえて飯田っていう言葉をこの基本理念の中に入れなくても底辺に流れているものはみんなそれぞれ飯田の文化会館をどうするに考えるのかっていうふうに考えての基本理念だと思いますので、言葉をあえて入れなくてもほかの言葉でその飯田らしさ、その飯田のここでの独自性みたいなものが含まれているんじゃないかというふうに思うので、私はあえて入れなくてもいいのかなということを思います。

○委員長 はい、ありがとうございます。

ほかにはご意見ありませんか。

(発言する者なし)

○委員長 はい、ありがとうございます。

それぞれでお考えになっているところもありますし、「飯田らしさ」っていうところが大事になってきているかなというふうに思います。

それから先ほど○○学識委員がおっしゃった「飯田ひろば」というのも「飯田らしいひろば」みたいに考えるといいのかな、あるいは「飯田」なくてもいいのかなと思います。

今日はここまでにしておいて、この次にまた覚えておいていただいて、というかこれから基本構想を話していくときにもこのことはきっと出てくるだろうと思うので、ちょっと持ち越しにしたいと思います。

それじゃあすみません、次へ移りますが、先ほど皆さん、「みんな」ということと、「ひろば」ということにもご意見いただきました。これもやっぱり「みんな」って平仮名3つの言葉なんです、が皆さんが捉えている「みんな」って結構違うな、いろんな捉え方があるなど。

「ひろば」もそうですね、たった平仮名3つなんですけど、これも皆さん捉え方が違って思います。「違った視点」っていうふうに発言してくださった方いらっしゃいますけど、決して違った視点ではなくて、すごく大事な視点を示していただいたというふうに思います。

これもまた議題にしてもまた皆さん多分同じだろうと思うので、これもちょっと持ち越しにしたいと思います。

ただ、「みんな」例えばが気楽にどんな人でも集まって来れる、そういう場所、そういう空間、そういう環境、そういうところは大事にしておきたいな。皆さん、この辺はここは異論

がないんじゃないかなというふうに思いました。

これは、私の勝手な個人的な感想ですけど、これもちょっと持ち越しにさせていただきたいと思います。

じゃあ、最後ですが、2番のところにキーワード4つありました。これはいるぞ、これはいないぞ、でもこれを生かそうというのがありましたら。

事務局の説明でも3つにするか、あるいはここにさらに付け加えるかっていう提案がありましたけど、このキーワードの中でこれはこういうことは入れたい、この4つの中からこれはいらんぞ、そこをちょっと具体的にご意見いただけますか。

○委員 先ほどの飯田らしさの議論にちょっと引っかかって、関係してくる部分なのかもしれないです。私、実は今このA・B・C・D4つのキーワードに集約されてますが、すごく大切なんだと思うのはこの上の括弧に括られている「ともに」っていう部分だと思うんですね。文化会館というところは、ただ箱があるだけでなく、本当に魂を入れていくのはみんなが使って、様々な活動をそこで行って、括弧にも書いてある「最終的に感動を分かち合っていくという場」になったときに初めてこの理念が達成されるわけで、箱を造っただけじゃ何も意味がないと思うんですね。だから、やっぱり「ともに」この場所をつくっていくんだっていう意識ですごく大事だなと思うんです。

要は魂を入れていくのは、みんなで一緒になってその魂を入れていくんだよっていうような表現。つくるというのは、何か例えばある芝居をつくるだとか、人形劇をつくるだとか、そういうことではなく、この文化会館という場をみんなでそういった様々な活動をともに進めて行く中で場所を「ともに」つくっていくんだと。それが、要は、飯田っぽい文化のあり方、飯田らしい文化のあり方につながっていくのではないかなあと思うので、僕は実はこの「ともに」ってとっても大切なキーワードだなっていうふうに思うんです。なんかまた絞り込まれたところにまた新しい言葉を放り込むようなことを申し訳ないんですが、やっぱり「つくること」、「感動すること」って「ともに」やっぱり分かち合っていくこと。そういう場があるんだっていうことが僕は飯田にとってすごく大事なことだと思うものですから、ちょっとそんなキーワードも、どこかに盛り込んでいただけたらうれしいなあなんてふうに思います。

○委員長 はい、ありがとうございました。

「ともに」って今、〇〇さんがおっしゃった、そういう意味合いで使っていく意見が先ほどから2、3あったようなように思います。

〇〇さんどうぞ。

○委員 飯田らしさという言葉はたくさん出ているんですが、皆さん、それぞれでイメージ違うんじゃないかと思うんです。飯田らしさをすごくいいところと、飯田の人だからって言われていることが残念ながらたくさんあるんですよね。そこをなんていうのかな、飯田らしさのどこを拾うかを決めないと、決めないというか絞り込んでいかないと、飯田らしさってやっぱ

り若い人たちはもうちょっと違う感性を持っているので、飯田らしさのどこがすごく先祖様からつくられてきた大事なところはここなんだ、飯田らしさは、という辺りを絞り込んで、飯田らしさをちょっと考えた方がいいんじゃないかなっていうふうに思っています。

飯田のマイナス面も非常にたくさんあると思うので、ただ飯田らしさでいいところばかりではないので、もう少しそこを砕き合って、ここの部分なんだってものをちょっとつかみ出してみたらどうなのかなって。すみません、いらんこと言って申し訳ないんですが、一遍決めると名前をもう変えられないので、名前だかこれは。なので、慎重にどうぞお願いします。

○委員長 ○○さん、どうぞ。

○委員 ○○です。

私の関係しているのは、飯田文化協会です。メインの活動が伊那谷文化芸術祭ということで11月、4日間を使って、日曜日、やっているんですが、これが非常に世間ではほかには見られない活動という評価をいただいております。

というのは、出演したい方たちが集まって、その方たちが裏方もし、また出演もし、観客にもなるということで、そういった意味では、その「集い、つくり、伝え、感動する」ということを網羅しているんじゃないかと思います。

先ほどの「ともに」ということがあって、この「感動する」という中に出演して演技・演奏する感動、それとそれを見て観客の方も「あっ素晴らしいなあ」、「頑張っているなあ」という「感動」を受ける、そういった両面があるということも言えると思います。そういうことから言うと先ほど出た「ともに」という言葉はぜひ入ったほうがいいかなと。

「ともに」という中にもこの「つくり、伝える」と、私たちはこういう演技・演奏しているんだから「ぜひ一緒にやろうよ」という「伝え」、そういったことも含まれていると思いますので、非常にこの言葉というのは私の関係している文化協会の芸術祭には非常に当てはまる言葉かなというふうには感じております。以上です。

○委員長 はい、どうぞ、○○さん。

○委員 この今4つの中で「伝える」というのが、舞台から何かを伝えるっていう意味と伝統芸能というのがあるんで、これを後世に伝えていくっていう意味での伝えるっていうふうにとったほうがいいのかなって今、感じました。それだけです。

○委員 「ともに」というのはもちろんあれなんですけど、そもそも「みんなが集い、つくる」という中で「えっ一人とか二人でつくるの」というふうにごこのみんなが集いつくるっていう部分で、もうともにっていうことを言っているような気がします。僕は。

○委員 お願いします。

実は、本校、本日、文化祭だったんです。本来ならば音楽会も文化祭の中に位置付けていて、音楽会はこの文化会館を利用して、残りの部分を本校の体育館、それからグラウンド等でやるんですが、コロナの影響で文化会館での音楽会は延期になったので、体育館のみでや

ったんですけれども、そこで感じたことは吹奏楽の発表があって、それから人形劇の発表があって、各部活動、それから各学級の総合的な学習の時間の発表があったんですね。さらにそこで運動会が雨が降ったのでできなかったということで、生徒会、学友会というんですけども、その子たちが考えたミニ運動会みたいなのを体育館でやったということで、体育館の中が音楽があり、学習の発表の場であり、体育、運動があったということなんです。そこに全校が集ったっていうことを考えてみると、そこから私、具体的な文化会館のイメージ、先ほど基本構想のよりどころになるっていくということだったので、大体このよりどころの言葉が完成したときはどんなふうになるのかなっていうところから考えたんですけれども、「みんなが集う」といっても、みんなが1か所集って満足したりだとか、本当に感動したりだとか、学んだりっていうことは無理だろうなど。60歳の方と5歳から10歳の方が無理だとすると、1か所じゃ無理だろうなど。広場は私は3つは必要なんじゃないかなと思ったんですね。

みんなが集う広場は3つ、1つは大ホールのような感動する広場。

もう1つが、今日の体育館で無理矢理やったんですけど、総合的な学習の時間の発表をしながらみんな議論したんですけども、静かに学んだり本を読んだり一人でいられる広場。

そしてもう1つは、運動とまではいわない、体育館で運動までやったんですけど、少し人と触れ合ったりとか、バンドをやったりだとか、自由に何でも使える。私のイメージからすると、芝生の庭だとか、小ホールみたいなところがあればいいなど。

先ほどの学びの広場は、ギャラリーみたいところで、飯田独自ってなると菱田春草の絵が飾ってあったりだとか、飯田にまつわる本があったりだとか、コーヒー飲みながらそういう本を読める場であったりとか、っていう3つの場があればいいのかな。そうするとある程度の人は集えるのかなと。

そうすると、A・B・C・Dっていうのは、「集う」はもうみんなが集う広場っていうところに持って行って、その広場はどういう広場だっていうところで、感動の広場とキーワードの中で言うつながる広場、触れ合いの広場っていうのもいいのかなと思ったんです。それからもう1つが創造の広場、学びの広場ぐらいにまとめられていくのかなあなんてことを思いました。

これ、あまりまとめすぎるとまたいけないんですが、イメージとしたらそんな感じのことを本日の学芸会から感じました。

以上です。

○委員長 はい、ありがとうございました。

○○さんどうぞ。

○委員 すみません、○○委員さんの話、ちょっとより戻すかもしれませんけど、基本構想をつくるに当たっての基本理念、大本ということになると、私考えてて、最終的にいろいろな言葉をぶった切っていくと、「感動を共有するひろば」っていうのが最初なのかなと思ってて、そ

ここにじゃあ飯田スタイルというか飯田アイデンティティの仮文化会館の何を特化させて、性格をつけるのかっていうと、その「集う」、「つくる」、「伝える」その3つなのかなというふうに思ったんです。つまりその「集う」、「つくる」、「伝える」っていうのが手段であって、その最終目的に感動がある。あるいは、「ともに感動する」、言葉を変えれば「感動を共有する」とか「感動をしあう」とか、さっきおっしゃっていた「感動を分かち合う」でしたっけ、っていうような表現になるのかなっていうふうに思いまして、その感動をする、感動というものをどういう位置づけにするのか、っていうのがちょっと引っかかったので、考えていければいいのかななんていうのはちょっと思いました。

○委員長 ありがとうございます。

時間がいくらあっても足りないかなっていう気がするんですが、今日はこれくらいにさせて、またそれぞれに皆さんが発言くださったことをもう一度また皆さんで共有しながら、議論を深めていきたいというふうに思います。

最後のほうで、特に具体的にこうこうっていうふうに示していただいたところが非常に貴重かなというふうに思います。

それじゃあ、ここで4人の学識経験の方、それからオブザーバーからコメントをいただいて、今日の振り返りとしたと思います。

〇〇さん苦しかったらパスとか言わないでね。

すみません、それじゃあ〇〇さんからお願いします。

○学識委員 皆様の熱い議論の後でとてもハードルを高く感じてしまいますが、今、いろいろとお話を伺っておりまして、僕もちょっと心の中が結構熱くなってきたというか、みんな熱心な議論を本当楽しませていただきました。

私から思うのは、しかもこの立場で、このタイミングで、このまだ決まっていないこのタイミングであえてというところですけども、まず思ったのが皆さん単語、「みんな」とか「ひろば」っていうところではいろんな考えがありますよねっていうところで、やっぱり1つに絞るって意味がないというか、もっといろんな意味があって含まれていて、そこが素敵になっていくんだろうというふうに思っております。

それを踏まえまして、基本理念の中で、やはり文化を振興していこうという側面と市民の皆様が文化を輝く場所にしていこうという側面と都市文化の側面とか、まちの文化、伝統文化、いろいろな方がいろいろな目的を持って集って来られるという意味を考えれば、その「ともに」というところも、すぐ隣にいる人と「ともに」だけではなくて、違う目的を持った人、この街のための違う目的を持った人との「ともに」というところでも必要なのかなというふうに思いましたし、それが本当皆さんが「ともに」と思えるように、単語1つ1つが皆様と共有できるような幅広い意味が持てたら素敵になるんじゃないかなというふうに感じました。

私からは以上です。

○委員長 はい、ありがとうございました。

○○さん、お願いします。

○学識委員 本当に先ほども申し上げましたけれども、感心するばかりで皆様のご意見本当に素晴らしいというふうに思っております。

もう本当に言葉1つ1つをいろいろと深めていこうとすると、数限りないいろんなワードが出てくると思いますので。ただ、先ほど申し上げたようにやっぱり分かりやすく、できるだけ広く皆さんにこの基本理念というのが浸透していくことってというのが重要だと思いますので、今、皆さんからいろんなご意見出ましたけれども、その「みんな」という言葉だったり、「ひろば」、先ほど井坪さんが「私たち」という言葉を新たに言われていましたが、何かそういうものでうまくまとめることができればいいのかというふうに思いました。

はい、ありがとうございます。

○委員長 はい、ありがとうございました。

○○さん、お願いします。

○学識委員 ○○でございます。

私も大変有意義な議論を聞かせていただきました。

これだけ意見、発言する方が途切れない会議もなかなかないなと思いつつ見させていただきました。

事務局のほうで仮案を用意していただいて、皆さんがこういうふうに全員で議論できたということも大変有意義なことだったと思いますし、まさにその皆さんお一人お一人のご発言というのは、こういうことを入れ込むべきだって。そのフレーズの言葉選び云々以上にこういうことを入れ込むべきだとしていうのを、この段階で今までの議論の延長線上にできたということは非常に有意義なのかなというふうに思いました。

特に今の段階でフレーズを1つに絞り込むことはないような気がしていて、こういうことを入れ込むべきだということが、今日の議論の中で30のキーワードからより絞られたというか、部分もあると思います。フレーズとしては、別にいくつかのものを並列しておきながら、それを今後の基本構想の議論のよりどころとし、ある一定の期が熟した段階で、今度は仮案ではなくて最終の基本理念というフレーズとしてまとめていくというやり方もあるのかなあというふうに思って聞いていました。

最後あとちょっと議論を聞いていて、これは意見とかでは全くないです。ただ、あつなるほどこういう考え方もあるかなというふうに思ったことを参考までに述べさせていただきますと、「みんな」という言葉に関していろいろなご意見が出ていたんですが、多様性とかそういう感じで捉えると「誰もが」という言葉に置き換えるという方法はあるかなというふうには思いました。いろいろな立場の人、どなたでもということ、エンターバディということですね。エブリバディのほうではなくて、そういう言い方もあるかなというふうに思ったのが1点。

それから、「私たち」という言葉が私は大変面白いなと思ったんですけど、「ともに」という概念を指すということと、それからもう1つは独自性というのも指すという、それを非常に平易な「私たち」という言葉で表現するという方法もあるのかなというふうには思いました。

あくまで感想です。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

○○さん、お願いします。

○オブザーバー これまでの文化会館が果たしてきた役割の中の、いわゆるその中から拾い出したキーワードから集められた基本理念をつくられているような気がします。一方で実現すべき理想的な姿、こんなものもわずか一言もでいいから何か載せると、学識経験者の皆様のアドバイスに近いものになるのではないかというような気がいたしました。

それからこれは全く別の話ですけど、前段に館長から建設場所の調査を始めるといってお話がありました。とかく世間は、どこに造るんだということに話題が非常に集中しがちです。これはもうやむを得ないことですが、それとは全く一線を画したこの検討委員会であるということをお負を持っていただきたいなというふうに思います。どこに造るのではなくて、何をつくるんだという非常に大事なところをやっているところで、これから皆様方もおそらく地域に入ったり自分のサークルに入ると「おい、どこに造るんだ、検討委員会は」多分こういう話になると思いますけれども、そこは1つうまく制御していただいて、どこにつくるかについての「検討・研究は今、市役所が勝手にやっておる」と。「私たちは違う考えでやっている」ということで一線を画した姿でプライドを持ってやっていただきたいと思います。

よろしくをお願いします。

○委員長 ありがとうございます。

また大事なことを言っていただきました。ありがとうございます。

ちょっと時間がまだ早いんですが、今日の予定をした議事は以上にしたいと思います。

それぞれの皆さんがご指摘いただいたこと、ちょっと事務局と一緒にまとめさせていただいて、また次の会議のときにお示しできるようにしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

皆さんに本当に○○学識委員がおっしゃいましたけど、途切れないご意見をいただきましてありがとうございます。

次回以降も積極的なご発言をお願いしたいと思います。

じゃあ最後に事務局をお願いします。

○筒井補佐（事務局） ご議論、ありがとうございます。

本日の委員会や今後の進め方に関しまして、ご意見がありましたら、随時文化会館、私の

ほうで受け付けておりますので、お気軽にご連絡いただければと思います。アンケート用紙、前回はそうでありましたが、用意ありますけれども、メールでも結構でありますのでご意見いただければと思います。

なお、次回の第4回整備検討委員会ですけれども、11月25日金曜日午後7時から行いたいと思います。

冒頭で館長から説明いたしましたけれども、今までも委員の皆さんからアンケートですとかご意見いただいております、他の都市の事例ですとかを聞きながら、基本構想の検討を進めたいというお話をいただいておりますので、次回は公共ホールを専門にした専門家の方のお話を聞く学習会も一緒に企画をしたいと思っておりますので、ぜひご出席をお願いしたいと思います。以上です。

○委員長 ほかの方から何かご発言ありますか。

(発言するものなし)

○委員長 事務局いいですか。

(発言するものなし)

○委員長 ありがとうございます。

以上で第3回の委員会を閉会させていただきます。ありがとうございます。

閉 会 午後 8時34分